

審査意見への対応を記載した書類（6月）

（目次）情報科学部情報科学科

【教育課程等】

1. 本学部が掲げる CP 3 において、「PBL 型授業やキャリア形成支援授業などにより社会問題への協調的な実践力を育む・・・高年次には社会実装型の科目を配置する」とあるが、設置の趣旨等を記載した書類（資料）の「資料 4 周南公立大学 情報科学部 カリキュラムマトリクス」において CP 3 と関連すると示された、専門科目の中の科目群である演習科目についてのシラバスを見ると、社会実装を目指した内容であるとは見受けられず、「社会実装型の科目」となっているとは見受けられない。このことから、カリキュラム・ポリシーを踏まえた授業科目や教育内容が、本学部の教育課程において適切に編成されているか疑義がある。このため、CP 3 に基づき社会実装型の授業科目が適切に配置されていることについて明確に説明するとともに、シラバスを含めた関連する記載について必要に応じて適切に改めること。
(是正事項)・・ 4
2. 本学部の教育課程には、自由科目として他学科専門科目が 8 科目 15 単位分配置されており、本学部の卒業要件として「他学科で開講された専門科目を 4 単位以上自由科目として修得・・・し、合計 124 単位以上を修得すること」とされているが、自由科目は「履修できるが卒業要件に算入しない科目」を指すものであり、自由科目として置かれる授業科目を卒業要件の単位数に算入することは不適切であることから、当該授業科目を必修科目又は選択科目に改めるか、当該自由科目の単位数を卒業要件の算入単位数から除外すること。
(是正事項)・・ 9
3. 設置の趣旨等を記載した書類（本文）の「5 教育方法、履修指導方法及び卒業要件」において、「カリキュラムツリーは、授業科目の学問分野領域に加えて学修段階を示し、学生を順次的かつ体系的な学びへと導くように描かれている」とあるが、設置の趣旨等を記載した書類（資料）の「資料 3 周南公立大学情報科学部 カリキュラムツリー」を見ると、科目区分ごとに授業科目を配列した図にとどまっており、カリキュラムにおける授業科目相互の関係や、それを踏まえた学修の道筋等を表した図とはなっていないことから、示されたカリキュラムツリーが学生の体系的な学びに十分に資するものとなっているのか疑義がある。このため、関連する授業科目を線でつなぐなど、配置された授業科目から学生の学修目的や課題意識等に応じた体系的な履修選択が実現できるよう、適切なカリキュラムツリーに改めること。
(改善事項)・・ 11

【入学者選抜】

4. 入学者選抜の実施方法について、設置の趣旨等を記載した書類（本文）の「9 入学者選抜の概要」において、一般選抜前期日程、一般選抜公立大学中期日程及び学校推薦型選抜と、これらに対応する試験区分や関係するアドミッション・ポリシーが表で示されているが、例えば、一般選抜前期日程の試験区分である大学入学共通テスト及び二次試験に関係するアドミッション・ポリシーはAP1のみであり、AP2、AP3及びAP4に掲げる資質や能力を確認することができる選抜方法となっていない。また、一般選抜公立大学中期日程についても、AP3を確認することができる選抜方法とはなっていないものと見受けられる。さらに、本学部の設定するアドミッション・ポリシーが、入学時において全ての学生に求めるものであるのか、または、いずれかを中核的な資質・能力として設定するものであるのかについても説明されていないことから、一般選抜の前期日程及び公立大学中期日程について、本学部の定める各アドミッション・ポリシーに掲げる資質・能力を、各試験区分を受験する学生が適切に身に付けていることを確認することができる入学者選抜となっているのか判断としない。このため、本学部が定めるアドミッション・ポリシーについて、入学時において全ての学生に求めるものであるのか、又はアドミッション・ポリシーのいずれかを中核的な資質・能力として設定した上で、当該資質・能力を全ての学生に求めつつ、他のアドミッション・ポリシーについて選抜区分ごとに異なる比重で判定するものであるのか明らかにした上で、前者であれば、各選抜区分において、本学部の定める各アドミッション・ポリシーに掲げる資質・能力を適切に身に付けていることを確認することができる入学者選抜が設定されていることについて改めて明確に説明するとともに、必要に応じて適切に改めること。後者である場合には、判定しない又は極めて比重の低いアドミッション・ポリシーに掲げる資質・能力を持つ学生に対して、どのようにディプロマ・ポリシーの達成を担保するのかについて、適切なカリキュラム・ポリシーと教育課程が編成されていることを含めて説明するか、必要に応じて適切に改めること。

（是正事項）・・ 1 2

【教員組織】

5. 教員資格審査において、「不可」や「保留」、「適格な職位・区分であれば可」となった授業科目について、当該授業科目を担当する教員を専任教員以外の教員で補充する場合には、主要授業科目は原則として専任の教授又は准教授が担当することとなっていることを踏まえ、当該授業科目の教育課程における位置付け等を明確にした上で、当該教員を後任として補充することの妥当性について説明すること。

（是正事項）・・ 1 5

【その他】

6. 本学の学則において、学校教育法施行規則第4条第1項第9号に規定する「寄宿舎に関する事項」について記載が見受けられないことから、適切に改めること。

(是正事項) 18

7. 審査意見以外に対する事項 19

(是正事項) 情報科学部 情報科学科

1. 本学部が掲げるCP3において、「PBL型授業やキャリア形成支援授業などにより社会問題への協調的な実践力を育む・・・高年次には社会実装型の科目を配置する」とあるが、設置の趣旨等を記載した書類(資料)の「資料4 周南公立大学 情報科学部 カリキュラムマトリクス」においてCP3と関連すると示された、専門科目の中の科目群である演習科目についてのシラバスを見ると、社会実装を目指した内容であるとは見受けられず、「社会実装型の科目」となっているとは見受けられない。このことから、カリキュラム・ポリシーを踏まえた授業科目や教育内容が、本学部の教育課程において適切に編成されているか疑義がある。このため、CP3に基づき社会実装型の授業科目が適切に配置されていることについて明確に説明するとともに、シラバスを含めた関連する記載について必要に応じて適切に改めること。

(対応)

本学では社会実装型の科目として、演習科目に「認知・感性とデータ分析」、「大規模・オープンデータ分析」、「生体情報分析」、「専門ゼミ1」、「専門ゼミ2」、「卒業研究」を配置している。中でも「認知・感性とデータ分析」、「大規模・オープンデータ分析」、「生体情報分析」は、PBL (Project Based Learning) 科目として複数の専任教員が担当し、課題設定、データ取得、データ加工・クレンジング、データ分析、評価、ビジネスへの適用・展開の可能性の評価という一連のプロセスによって、学部での学びから社会実装までの接続を学ぶものである。「専門ゼミ1」、「専門ゼミ2」、「卒業研究」はそのプロセスをさらに拡大し、2年をかけて学部での学びの総まとめとして卒業論文の執筆につなげるものであり、社会と繋がりながら成功と失敗を繰り返すことで、地域や社会及び企業の抱える諸問題を解決する実践力を身に付けることが可能となる。

審査意見を踏まえ、社会実装型の授業科目が適切に配置されていることを明確にするため、「大規模・オープンデータ分析」、「生体情報分析」「専門ゼミ1」「専門ゼミ2」、「卒業研究」のシラバスに社会実装型であることを具体的に記載する。なお、「認知・感性とデータ分析」については、「実社会での実装例を学びながら、それらの重要性と社会的な必要性を理解する。実装例に沿って、実際のデータを用いた課題解決を実習する」と社会実装型での授業科目であることを既に明記しているため、修正は行わない。

また、各プログラムの高年次に社会実装型の科目を配置できていなかったことから、CP3に不整合が生じるため、CP3を適切に改め、該当する書類を修正する。

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類

新	旧
<p>1 設置の趣旨及び必要性 (3) 養成する人材像及び学位授与の方針 ウ 教育課程編成・実施の方針 (カリキュラム・ポリシー) P11</p> <p>CP3 PBL 型授業やキャリア形成支援授業などにより社会問題への協調的な実践力を育む科目及び専門ゼミなど<u>社会実装型の科目を配置する。</u></p> <p>4 教育課程の編成の考え方及び特色 (1) 教育課程の編成・実施の方針 P18</p> <p>CP3 PBL 型授業やキャリア形成支援授業などにより社会問題への協調的な実践力を育む科目及び専門ゼミなど<u>社会実装型の科目を配置する。</u></p>	<p>1 設置の趣旨及び必要性 (3) 養成する人材像及び学位授与の方針 ウ 教育課程編成・実施の方針 (カリキュラム・ポリシー) P11</p> <p>CP3 PBL型授業やキャリア形成支援授業などにより社会問題への協調的な実践力を育む科目及び専門ゼミを配置する。各プログラムの高年次には社会実装型の科目を配置する。</p> <p>4 教育課程の編成の考え方及び特色 (1) 教育課程の編成・実施の方針 P18</p> <p>CP3 PBL型授業やキャリア形成支援授業などにより社会問題への協調的な実践力を育む科目及び専門ゼミを配置する。各プログラムの高年次には社会実装型の科目を配置する。</p>

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (別添資料)

新	旧
<p>1 設置の趣旨及び必要性 (3) 養成する人材像及び学位授与の方針 オ 養成する人材像と各ポリシーとの相関・整合性 P13</p> <p>資料2 各ポリシーの相関性 【別紙 1-1】参照 資料3 カリキュラムツリー 【別紙 2-1】参照 資料4 カリキュラムマトリクス 【別紙 3-1】参照</p>	<p>1 設置の趣旨及び必要性 (3) 養成する人材像及び学位授与の方針 オ 養成する人材像と各ポリシーとの相関・整合性 P13</p> <p>資料2 各ポリシーの相関性 【別紙 1-2】参照 資料3 カリキュラムツリー 【別紙 2-2】参照 資料4 カリキュラムマトリクス 【別紙 3-2】参照</p>

(新旧対照表) シラバス

新	旧
<p>P122 大規模・オープンデータ分析 【別紙 4-1】 参照</p> <p>近年では、様々な企業や機関により蓄積された種々のデータがオープンデータとして公開されており、これの活用、分析によって課題の発見や解決、意思決定がなされている。本授業では、機械学習や数理最適化、統計解析などの大規模・オープンデータの活用、分析方法について、演習を通じて実践的に修得することを目標とする。授業は複数教員によるオムニバス形式で進行し、各教員が設定するテーマについての概説、演習、プレゼンテーションを通じて理解を深め、大規模・オープンデータ分析に関する実践的能力を養う。<u>加えて、実社会での実装例を学びながら、それらの重要性と社会的な必要性を理解する。</u></p>	<p>P122 大規模・オープンデータ分析 【別紙 4-2】 参照</p> <p>近年では、様々な企業や機関により蓄積された種々のデータがオープンデータとして公開されており、これの活用、分析によって課題の発見や解決、意思決定がなされている。本授業では、機械学習や数理最適化、統計解析などの大規模・オープンデータの活用、分析方法について、演習を通じて実践的に修得することを目標とする。授業は複数教員によるオムニバス形式で進行し、各教員が設定するテーマについての概説、演習、プレゼンテーションを通じて理解を深め、大規模・オープンデータ分析に関する実践的能力を養う。</p>
<p>P124 生体情報分析 【別紙 5-1】 参照</p> <p>本授業では、ヒトの生体信号の計測およびデータ処理の手順とデータの分析方法について実践的に学ぶ。ヒトの様々な生体信号を適切に分析し、グループでのディスカッションを通じて分析結果をまとめ、最終的にプレゼンテーションを行うことで、課題解決につながる能力を身に付けることを目標とする。<u>加えて、実社会での実装例を学びながら、それらの重要性と社会的な必要性を理解する。</u>授業は複数教員によるオムニバス科目として進行する。</p>	<p>P124 生体情報分析 【別紙 5-2】 参照</p> <p>本授業では、ヒトの生体信号の計測およびデータ処理の手順とデータの分析方法について実践的に学ぶ。ヒトの様々な生体信号を適切に分析し、グループでのディスカッションを通じて分析結果をまとめ、最終的にプレゼンテーションを行うことで、課題解決につながる能力を身に付けることを目標とする。授業は複数教員によるオムニバス科目として進行する。</p>
<p>P126 専門ゼミ 1 【別紙 6-1】 参照</p> <p>専門ゼミは卒業論文を作成するための準備として位置付けられ、担当教員の指導の下、文献検索や論文・専門書の輪読、実データの分析や必要なプログラミングについて学ぶ。専門ゼミ 1 では、受講生は興味を</p>	<p>P126 専門ゼミ 1 【別紙 6-2】 参照</p> <p>専門ゼミは卒業論文を作成するための準備として位置付けられ、担当教員の指導の下、文献検索や論文・専門書の輪読、実データの分析や必要なプログラミングについて学ぶ。専門ゼミ 1 では、受講生は興味を</p>

<p>持った研究トピックに関連する論文・専門書を読み、ディスカッションを通して卒業論文の執筆につながる基礎知識やスキルを習得する。<u>加えて、実社会での実装例を学びながら、それらの重要性と社会的な必要性を理解する。</u>文献講読では、①要点、②評価、③語句説明等を含めたレジュメを作成し報告を行う。報告者以外の受講生もディスカッションに参加し、質問や意見を述べて理解を深める。</p>	<p>持った研究トピックに関連する論文・専門書を読み、ディスカッションを通して卒業論文の執筆につながる基礎知識やスキルを習得する。文献講読では、①要点、②評価、③語句説明等を含めたレジュメを作成し報告を行う。報告者以外の受講生もディスカッションに参加し、質問や意見を述べて理解を深める。</p>
<p>P128 専門ゼミ 2 【別紙 7-1】 参照</p>	<p>P128 専門ゼミ 2 【別紙 7-2】 参照</p>
<p>専門ゼミは卒業論文を作成するための準備として位置付けられ、担当教員の指導の下、文献検索や論文・専門書の講読、実データの分析や必要なプログラミングについて学ぶ。専門ゼミ 2 では、引き続き文献講読も行うが、卒業研究に向けた準備のため、データの取得、データ分析に合致した手法およびプログラミングの学習に重点が置かれる。また、研究事例の報告を通して、文献の検索・収集の方法や、研究の進め方やまとめ方、発表方法を実践的に学ぶ。<u>加えて、実社会での実装例を学びながら、それらの重要性と社会的な必要性を理解する。</u></p>	<p>専門ゼミは卒業論文を作成するための準備として位置付けられ、担当教員の指導の下、文献検索や論文・専門書の講読、実データの分析や必要なプログラミングについて学ぶ。専門ゼミ 2 では、引き続き文献講読も行うが、卒業研究に向けた準備のため、データの取得、データ分析に合致した手法およびプログラミングの学習に重点が置かれる。また、研究事例の報告を通して、文献の検索・収集の方法や、研究の進め方やまとめ方、発表方法を実践的に学ぶ。</p>
<p>P130 卒業研究 【別紙 8-1】 参照</p>	<p>P130 卒業研究 【別紙 8-2】 参照</p>
<p>卒業研究は卒業論文を作成するための授業であり、担当教員の指導の下、研究テーマを設定し、必要な文献（論文や専門書）の講読、実データの分析や必要なプログラミングについて学ぶ。卒業研究は学生個々人の主体的・自律的な取組みであるが、前期は専門ゼミ同様に文献講読や卒業研究のテーマに沿った準備学習も行う。一方、後期の授業では自身に取り組んだ研究成果の進捗状況を報告し、指導教員および授業参加者との議論を通して研究内容をブラッシュアップしていく。研究成果の報告を通して、研究の進め方やまとめ方、発表方法を実践的に学ぶ。<u>加えて、実社会での実装例</u></p>	<p>卒業研究は卒業論文を作成するための授業であり、担当教員の指導の下、研究テーマを設定し、必要な文献（論文や専門書）の講読、実データの分析や必要なプログラミングについて学ぶ。卒業研究は学生個々人の主体的・自律的な取組みであるが、前期は専門ゼミ同様に文献講読や卒業研究のテーマに沿った準備学習も行う。一方、後期の授業では自身に取り組んだ研究成果の進捗状況を報告し、指導教員および授業参加者との議論を通して研究内容をブラッシュアップしていく。研究成果の報告を通して、研究の進め方やまとめ方、発表方法を実践的に学ぶ。</p>

を学びながら、それらの重要性と社会的な 必要性を理解する。	
----------------------------------	--

(是正事項) 情報科学部 情報科学科

2. 本学部の教育課程には、自由科目として他学科専門科目が8科目15単位分配置されており、本学部の卒業要件として「他学科で開講された専門科目を4単位以上自由科目として修得・・・し、合計124単位以上を修得すること」とされているが、自由科目は「履修できるが卒業要件に算入しない科目」を指すものであり、自由科目として置かれる授業科目を卒業要件の単位数に算入することは不適切であることから、当該授業科目を必修科目又は選択科目に改めるか、当該自由科目の単位数を卒業要件の算入単位数から除外すること。

(対応)

審査意見を踏まえ、自由科目として他学科専門科目8科目15単位分配置していた自由科目を選択科目に改め、区分を専門科目(他学科専門科目)と変更することとする。

(新旧対照表) 基本計画書 P6

新					旧				
教育課程等の概要					教育課程等の概要				
専門科目		他学科専門科目			自由科目		他学科専門科目		
授業科目の名称	配当年次	単位数			授業科目の名称	配当年次	単位数		
		必修	選択	自由			必修	選択	自由
地域観光まちづくり論	1前		2		地域観光まちづくり論	1前		2	
マーケティング論Ⅰ	2前		2		マーケティング論Ⅰ	2前		2	
地域マネジメント論	2前		2		地域マネジメント論	2前		2	
スポーツ産業学	3前		2		スポーツ産業学	3前		2	
スポーツマネジメント	3後		2		スポーツマネジメント	3後		2	
スポーツツーリズム論	3後		2		スポーツツーリズム論	3後		2	
保健医療と福祉	4前		2		保健医療と福祉	4前		2	
医療経済学	4後		1		医療経済学	4後		1	
小計(8)科目	—	0	15	0	小計(8)科目	—	0	0	15

<p>卒業要件及び履修方法</p> <p>全学共通の総合科目から必修科目 19 単位、専門科目のうち情報科学部基礎領域科目から 16 単位、実践英語 4 単位 (3 科目から 2 科目選択必修)、演習科目から 8 単位、主プログラムから 8 単位 (選択必修)、合計で最低 55 単位の必修科目を修得する。残りの 69 単位は主プログラムから 14 単位 (選択必修)、他学科で開講された専門科目を 4 単位以上<u>選択</u>科目として修得、主プログラムとしない選択科目から合わせて 36 単位以上修得し、合計 124 単位以上を修得すること。</p>	<p>卒業要件及び履修方法</p> <p>全学共通の総合科目から必修科目 19 単位、専門科目のうち情報科学部基礎領域科目から 16 単位、実践英語 4 単位 (3 科目から 2 科目選択必修)、演習科目から 8 単位、主プログラムから 8 単位 (選択必修)、合計で最低 55 単位の必修科目を修得する。残りの 69 単位は主プログラムから 14 単位 (選択必修)、他学科で開講された専門科目を 4 単位以上自由科目として修得、主プログラムとしない選択科目から合わせて 36 単位以上修得し、合計 124 単位以上を修得すること。</p>
--	---

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (別添資料)

新	旧
<p>P69～75 各履修モデル 【別紙 9-1】参照</p> <p>全学共通の総合科目から必修科目 19 単位、専門科目のうち情報科学部基礎領域科目から 16 単位、実践英語 4 単位 (3 科目から 2 科目選択必修)、演習科目から 8 単位、主プログラムから 8 単位 (選択必修)、合計で最低 55 単位の必修科目を修得する。残りの 69 単位は主プログラムから 14 単位 (選択必修)、他学科で開講された専門科目を 4 単位以上<u>選択</u>科目として修得、主プログラムとしない選択科目から合わせて 36 単位以上修得する。(CAP 制: 各年次 48 単位の履修上限単位を設定、履修上限単位を半期 24 単位) 合計 124 単位以上修得。</p>	<p>P69 各履修モデル 【別紙 9-2】参照</p> <p>全学共通の総合科目から必修科目 19 単位、専門科目のうち情報科学部基礎領域科目から 16 単位、実践英語 4 単位 (3 科目から 2 科目選択必修)、演習科目から 8 単位、主プログラムから 8 単位 (選択必修)、合計で最低 55 単位の必修科目を習得する。残りの 69 単位は主プログラムから 14 単位 (選択必修)、他学科で開講された専門科目を 4 単位以上自由科目として修得、主プログラムとしない選択科目から合わせて 36 単位以上修得する。(CAP 制: 各年次 48 単位の履修上限単位を設定、履修上限単位を半期 24 単位) 合計 124 単位以上修得。</p>

(改善事項) 情報科学部 情報科学科

3. 設置の趣旨等を記載した書類(本文)の「5 教育方法、履修指導方法及び卒業要件」において、「カリキュラムツリーは、授業科目の学問分野領域に加えて学修段階を示し、学生を順次的かつ体系的な学びへと導くように描かれている」とあるが、設置の趣旨等を記載した書類(資料)の「資料3 周南公立大学情報科学部 カリキュラムツリー」を見ると、科目区分ごとに授業科目を配列した図にとどまっており、カリキュラムにおける授業科目相互の関係や、それを踏まえた学修の道筋等を表した図とはなっていないことから、示されたカリキュラムツリーが学生の体系的な学びに十分に資するものとなっているのか疑義がある。このため、関連する授業科目を線でつなぐなど、配置された授業科目から学生の学修目的や課題意識等に応じた体系的な履修選択が実現できるよう、適切なカリキュラムツリーに改めること。

(対応)

審査意見を踏まえ、以下の内容で作成を行った。

教育課程は、履修を推奨する配当年次に授業科目を配置しており、各授業科目の根拠となるカリキュラム・ポリシーを結び付けることで体系性を示した。各授業科目は、着色等により科目区分や必修(赤)・選択(黒)・プログラム選択必修(緑)・実践英語2科目必修(青)の別をカリキュラムマップ上部に示した。また、関連の強い科目は科目群として細枠で囲んだ。加えて、科目群間をつなぐ破線矢印(灰色)は、関連する授業科目群間の履修上の体系性を示している。

各ポリシー間の関係については、複数のポリシーと対応することがあるため、科目区分・プログラム区分別に着色や実線を記載することにより、学生に分かりやすいよう工夫をしている。

また、ディプロマ・ポリシー、養成する人材像を上段に示すことで、本学部におけるカリキュラムツリーを補完する情報として示している。

課題意識等に応じた体系的な履修選択が実現できるよう、学修成果の可視化が可能となる適切なカリキュラムツリーに改め、授業科目の順序性・体系性・科目配置の整合性を一覧化した。

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類(別添資料) P63

新	旧
【別紙 2-1】 参照 (再掲)	【別紙 2-2】 参照 (再掲)

(是正事項) 情報科学部 情報科学科

4. 入学者選抜の実施方法について、設置の趣旨等を記載した書類(本文)の「9 入学者選抜の概要」において、一般選抜前期日程、一般選抜公立大学中期日程及び学校推薦型選抜と、これらに対応する試験区分や関係するアドミッション・ポリシーが表で示されているが、例えば、一般選抜前期日程の試験区分である大学入学共通テスト及び二次試験に関係するアドミッション・ポリシーはAP1のみであり、AP2、AP3及びAP4に掲げる資質や能力を確認することができる選抜方法となっていない。また、一般選抜公立大学中期日程についても、AP3を確認することができる選抜方法とはなっていないものと見受けられる。さらに、本学部の設定するアドミッション・ポリシーが、入学時において全ての学生に求めるものであるのか、または、いずれかを中核的な資質・能力として設定するものであるのかについても説明されていないことから、一般選抜の前期日程及び公立大学中期日程について、本学部の定める各アドミッション・ポリシーに掲げる資質・能力を、各試験区分を受験する学生が適切に身に付けていることを確認することができる入学者選抜となっているのか判然としない。このため、本学部が定めるアドミッション・ポリシーについて、入学時において全ての学生に求めるものであるのか、又はアドミッション・ポリシーのいずれかを中核的な資質・能力として設定した上で、当該資質・能力を全ての学生に求めつつ、他のアドミッション・ポリシーについて選抜区分ごとに異なる比重で判定するものであるのか明らかにした上で、前者であれば、各選抜区分において、本学部の定める各アドミッション・ポリシーに掲げる資質・能力を適切に身に付けていることを確認することができる入学者選抜が設定されていることについて改めて明確に説明するとともに、必要に応じて適切に改めること。後者である場合には、判定しない又は極めて比重の低いアドミッション・ポリシーに掲げる資質・能力を持つ学生に対して、どのようにディプロマ・ポリシーの達成を担保するのかについて、適切なカリキュラム・ポリシーと教育課程が編成されていることを含めて説明するか、必要に応じて適切に改めること。

(対応)

審査意見を踏まえ、一般選抜前期日程および公立大学中期日程いずれも、AP1からAP4までの資質・能力を確認できる選抜方法とするため以下のように修正した。

一般選抜前期日程においては、大学入学共通テスト及び二次試験の筆記試験によってAP1に掲げる資質・能力を確認し、二次試験の小論文試験によってAP2、3、4に掲げる資質・能力を確認する。

公立大学中期日程においては、大学共通テストによってAP1に掲げる資質・能力を確認し、二次試験の小論文によってAP2、3、4に掲げる資質・能力を確認する。

これらの修正によって、いずれの選抜方式においてもすべての受験生に対しAP1から4に掲げる資質・能力を確認することを可能とした。ただし、入学者の多様性を確保するために選抜方式ごとに得点の配分を変化させた。具体的には一般選抜前期日程はAP1を重視し二次選抜では筆記試験の配点を高くしたのに対し、公立大学中期日程はAP2、3、4をより重視するために筆記試験を設定せず、小論文の配点を高めた。

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 P30

新

(3) 選抜方法

選抜区分	募集人数	試験区分	アドミッション・ポリシーとの関係			
			AP1	AP2	AP3	AP4
一般選抜 前期日程	40名	大学入学 共通テスト	○			
		二次試験	○	○	○	○
一般選抜 公立大学 中期日程	30名	大学入学 共通テスト	○			
		二次試験		○	○	○

ア 一般選抜

【前期日程】

大学入学共通テスト（英語、数学ⅠA、数学ⅡB、国語又理科（理科基礎2科目若しくは理科1科目）。600点満点）及び二次試験（数学ⅠA・ⅡB 300点、小論文 100点。400点満点）の総合点で評価する。

試験区分	教科・科目等		配点
大学入学 共通テスト	必須	英語	200点
		数学ⅠA	100点
		数学ⅡB	100点
	選択	国語	200点
		理科（理科基礎2科目or理科1科目）	
合計			600点
二次試験	必須	数学ⅠA・ⅡB	<u>300点</u>
		小論文	<u>100点</u>
	合計		

旧

(3) 選抜方法

選抜区分	募集人数	試験区分	アドミッション・ポリシーとの関係			
			AP1	AP2	AP3	AP4
一般選抜 前期日程	40名	大学入学 共通テスト	○			
		二次試験	○			
一般選抜 公立大学 中期日程	30名	大学入学 共通テスト	○			
		二次試験		○		○

ア 一般選抜

【前期日程】

大学入学共通テスト（英語、数学ⅠA、数学ⅡB、国語又理科（理科基礎2科目若しくは理科1科目）。600点満点）及び二次試験（数学ⅠA・ⅡB。各200点満点）の総合点で評価する。

試験区分	教科・科目等		配点
大学入学 共通テスト	必須	英語	200点
		数学ⅠA	100点
		数学ⅡB	100点
	選択	国語	200点
		理科（理科基礎2科目or理科1科目）	
合計			600点
二次試験	必須	数学ⅠA・ⅡB	400点

(是正事項) 情報科学部 情報科学科

5. 教員資格審査において、「不可」や「保留」、「適格な職位・区分であれば可」となった授業科目について、当該授業科目を担当する教員を専任教員以外の教員で補充する場合には、主要授業科目は原則として専任の教授又は准教授が担当することとなっていることを踏まえ、当該授業科目の教育課程における位置付け等を明確にした上で、当該教員を後任として補充することの妥当性について説明すること。

(対応)

教員資格審査において、「社会調査法」の教授1名、「医療情報システム」の准教授1名、「認知・感性とデータ分析」の准教授1名が、担当授業科目が不可の判定であった。そのため主要授業科目である「認知・感性とデータ分析」については、専任教員(教授)を配置し、新たに教員資格審査を受けることとする。主要授業科目でない「社会調査法」、「医療情報システム」については、適任者である兼任教員を配置することとする。上述した教員の補充によって、授業運営、教育効果等に支障はないと考える。

①社会調査法

審査結果	授業科目不可 教授1名
対応	主要授業科目でないことから、適任者である綿村英一郎氏を兼任教員として配置することとする。

②医療情報システム

審査結果	授業科目不可 准教授1名
対応	主要授業科目でないことから、適任者である河内山隆紀氏を兼任教員として配置することとする。

③認知・感性とデータ分析

審査結果	授業科目不可 准教授1名
対応	主要授業科目のため、新たに橋本教授を配置することとし、教員資格審査を受けることとする。

(新旧対照表) 基本計画書

新	旧
教員組織の概要 情報科学部情報科学科 兼任教員等 65	教員組織の概要 情報科学部情報科学科 兼任教員等 63

(新旧対照表) 基本計画書

新	旧
教育課程等の概要	教育課程等の概要
P5	P5
社会調査法 兼 1	社会調査法 教授 1
医療情報システム 兼 1	医療情報システム 准教授 1
P6	P6
認知・感性とデータ分析 教授 1	認知・感性とデータ分析 准教授 1
合計 兼 67	合計 兼 63

(新旧対照表) 基本計画書

新	旧
授業科目の概要	授業科目の概要
P22	P22
認知・感性とデータ分析 (4 橋本 喜代太 / 5回)	認知・感性とデータ分析 (12 立部 文崇 / 5回)

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (別添資料)

新	旧
P139 資料 13 周南公立大学情報科学部情報科学科時間割 令和 9 (2027) 年度 全学部学科時間割 【別紙 10-1】参照	P139 資料 13 周南公立大学情報科学部情報科学科時間割 令和 9 (2027) 年度 全学部学科時間割 【別紙 10-2】参照

(新旧対照表) シラバス

新			
P50、51 社会調査法 削除			
P100、101 医療情報システム 削除			
P120 認知・感性とデータ分析			
授業科目名	認知・感性とデータ分析	担当形態	オムニバス方式
	英名 Data Analysis in Recognition and Kansei	担当教員	土屋 敏夫 橋本 喜代太、酒井 徹也
6	ことばと音声：不自然に聞こえる機械音声	講義	橋本喜代太
7	イントネーション：発話末尾の音の変化	講義	橋本喜代太
8	音声分析ソフト「praat」の使い方と自身の音声进行分析する	演習	橋本喜代太
9	音声データの収集方法とデータ収集	演習	橋本喜代太
10	音声データの分析結果プレゼンテーション	演習	橋本喜代太
旧			

P50、51
社会調査法

P100、101
医療情報システム

P120
認知・感性とデータ分析

授業科目名	認知・感性とデータ分析	担当形態	オムニバス方式
	英名 Data Analysis in Recognition and Kansei	担当教員	土屋 敏夫
			立部 文崇、酒井 徹也

6	ことばと音声：不自然に聞こえる機械音声	講義	立部文崇
7	イントネーション：発話末尾の音の変化	講義	立部文崇
8	音声分析ソフト「praat」の使い方と自身の音声を分析する	演習	立部文崇
9	音声データの収集方法とデータ収集	演習	立部文崇
10	音声データの分析結果プレゼンテーション	演習	立部文崇

(是正事項) 情報科学部 情報科学科

6. 本学の学則において、学校教育法施行規則第4条第1項第9号に規定する「寄宿舎に関する事項」について記載が見受けられないことから、適切に改めること。

(対応)

本学には寄宿舎が存在しないため、学校教育法施行規則第4条第1項第9号に規定する「寄宿舎に関する事項」については、学則に記載しない。

(審査意見以外に対する事項) 情報科学部 情報科学科

審査意見以外に対する事項の対応として、本学部ではディプロマ・ポリシーとアドミッション・ポリシーの「諸問題」については、以下のように考えていることから明確に示す。

本学部が考える DP2、DP3・AP2 の「諸問題」は、「地域や社会及び企業の抱える諸問題」を指している。企業や社会の DX 推進、技術伝承、従業員確保といった『現在進行形の問題だけでなく、来るべき Society5.0 において発生するであろう未知の課題』を、いかにデジタル技術によってアプローチしていくかを指している。

また、AP2 の「諸問題」は、「デジタル社会の諸問題」を指している。サイバーセキュリティの確保、公的基礎情報データベースの整備、生活の利便性向上、経済活動の促進、事業者の経営の効率化といった『高度情報通信ネットワークの利用及び情報通信技術を用いた情報の活用により生ずる社会経済構造の変化に伴う新たな課題』を、いかにデジタルの形成によって重点的に推進していくかを指している。

入学前の学生や社会に対しては、養成する人材像及び3つのポリシーについて、ホームページ等で説明し、入学後の学生には入学時及びオリエンテーションの機会に、言葉の定義を含めて、繰り返し具体的に説明を行い、各 DP に示す資質・能力の修得を促すこととする。

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類

新	旧
<p>1 設置の趣旨及び必要性 (3) 養成する人材像及び学位授与の方針 イ 卒業認定・学位授与の方針 (ディプロマ・ポリシー)</p> <p>P11 情報科学部は、定められた年限を在学し、所定の単位数を取得し、総合科目及び3つのプログラムでの学修を通して、幅広い教養及び情報科学の体系・知識・知見・技術を身に付け、地域社会で応用・実践し、グローバルな視点を持ちながら地域の持続的な生活・産業・文化の継承と発展に貢献する素地を身に付けた者に学士(情報科学)の学位を授与する。 具体的には、本学の教育目標に対応した学部ディプロマ・ポリシーは以下のとおりである。<u>DP2、DP3の「諸問題」は「地域や社会及び企業の抱える諸問題」を指す。</u></p>	<p>1 設置の趣旨及び必要性 (3) 養成する人材像及び学位授与の方針 イ 卒業認定・学位授与の方針 (ディプロマ・ポリシー)</p> <p>P11 情報科学部は、定められた年限を在学し、所定の単位数を取得し、総合科目及び3つのプログラムでの学修を通して、幅広い教養及び情報科学の体系・知識・知見・技術を身に付け、地域社会で応用・実践し、グローバルな視点を持ちながら地域の持続的な生活・産業・文化の継承と発展に貢献する素地を身に付けた者に学士(情報科学)の学位を授与する。 具体的には、本学の教育目標に対応した学部ディプロマ・ポリシーは以下のとおりである。</p>

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類

新	旧
<p>1 設置の趣旨及び必要性 (3) 養成する人材像及び学位授与の方針 エ 入学者受入れの方針 (アドミッション・ポリシー)</p> <p>P12 養成する人材像に沿って設定したディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーに対応したアドミッション・ポリシーは以下のとおりである。AP1 の「諸問題」は「<u>地域や社会及び企業の抱える諸問題</u>」を指し、AP2 の「諸問題」は「<u>デジタル社会の諸問題</u>」を指す。</p>	<p>1 設置の趣旨及び必要性 (3) 養成する人材像及び学位授与の方針 エ 入学者受入れの方針 (アドミッション・ポリシー)</p> <p>P12 養成する人材像に沿って設定したディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーに対応したアドミッション・ポリシーは以下のとおりである。</p>